

# 鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 43号

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

発行日 2005. 7. 20

編集 芳村恵子

〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

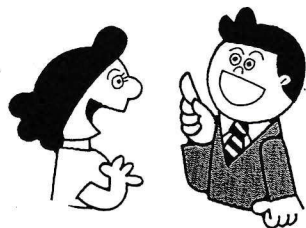
平成17年度

## 鳥取県青少年育成アドバイザー協議会総会

日時 平成17年6月25日(土)  
場所 鳥取県立倉吉体育文化会館  
出席者 西田県民会議事務局長 伊藤肇  
山本邦彦 清水成真 熊本信幸  
新川裕二 田中寛一 井上廉女  
西浦公子 菊澤慧昭 森岡敏人  
門脇哲也 芳村恵子

この頃15歳の少年の犯罪が立て続けに起こっている。このような暗い所にも目を向けながらも、今それなりに地域で取り組んでいる「健全育成活動」を伸ばすことも必要である。『このままでは良くない。自分には何が出来るか』を考えながら取り組もうという山本会長の挨拶から総会が始まった。

西田県民会議事務局長は、家族の絆や地域の結びつきの薄さを感じるというや、最近の青少年問題を取り上げられると共に、県民会議の青少年係3人で、自動販売機に焦点を当てた取り組みをされていることをお話された。



そして、報告事項及び議案審議がなされ、前年度の総括及び今年度の計画が承認された。また、今年度の役員は山本会長以下全員引き続き再任となった。

その他、休会中の方への対応や新たな仲間作りについても話し合った。それぞれの方と活動を再開できる日が一日も早く来てくれるよう待ち望みながら、総会を終了した。

その後、懇親会があり、わいわいがやがやと楽しいひと時を過ごした。菊澤・森岡両氏のグレードアップしたマジックショーには大感激でした。

いつまでも青年のように輝いている仲間全員に、大拍手!!でした。

毎年発行していた「はぐくみ」が原稿不足の為休刊となってしまいました。折角の原稿ですので、皆さんに読んで頂きたく、通信に掲載させていただきます。

### 「夢と希望をたくして」

～素直に「ありがとう」と言えるこどもに～

山本 邦彦

私は、子ども達が「ありがとう」という感謝の心を生涯にわたって養い続け、いつの時も「ありがとう」と言うことのできる人に育ててほしいと願っている。

今、大人も子どもも自分が中心の行き方をしており、それが当たり前の社会となっているが、本当はこの生き方が、人の不幸を作り出している全ての原因になっていると思うからである。毎日の生活の中で、自分中心の生き方をしていると、不平や不満を並べることが多くなってしまいが、それは本当に不幸で悲しいことだと思う。自分勝手な思いや欲望が、不平や不満になっていることに気付くと、少し考え方や見方が変わってくるのではないだろうか。

例えば毎日の食事一つをとってみても、「ご馳走が少ない」「味がまずい」「お肉が食べたい」それなのに親は食べさせてくれない、と不平・不満を言ったとしたら、誰が幸せや喜びを感じるだろう。言った本人は勿論、それを聞いた親も家族も悲しく思うだろう。それよりも、ご馳走とはいえないけれど今日も元気でご飯を食べることが出来る、有り難いことだ、と笑顔で「いただきます」と言ったら、自分も気持ちよく美味しく食べることができ、親も家族も喜ぶだろう。笑顔の中で、また頑張ろう、という気持ち生まれ、新しい力が湧いてくるに違いない。

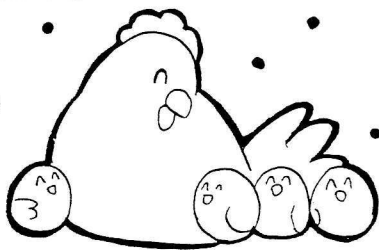
この広い大きな社会は自分一人で生きている訳ではないから、自分の思うとおりにならないのが当たり前である。もし自分の願いが少しでもかなったとしたら、それは珍しいことで「有難い」ことなのである。毎日を元気で、友達と仲良く遊び、勉強できることは、本当に難しいことなのである。

裏面に続く

だから「有難い」のである。毎日の生活を注意してみると「有難い」ことが、いくつもあることに気付くと思う。

私は、人間らしく生きる生き方の一番の根っこに「ありがとう」という感謝の心がある事を子ども達に伝えたい。これこそが全ての人が幸せを実感して生きることのできる社会づくりの土台となると思うからである。もし子ども達の毎日生活する家庭や地域、学校が「ありがとう」という言葉で溢れたらどんなに素晴らしいことだろう。きっと、心身ともに健やかで、次代を担う逞しい若者に育つに違いない。その為、自分自身も少しでも多く「ありがとう」と言える人になりたいと願っている。

自分勝手に気ままな人間の集まりになってしまった現代社会は、不平・不満ばかりで事件が多発する不幸な社会であり、子ども達の成長にとって相応しくない社会であることを肝に銘じる必要がある。



## 地域で子どもを育てよう

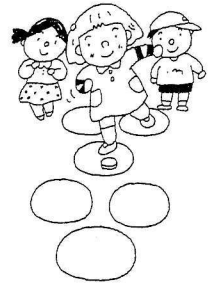
馬屋原 育子

地域の教育力の低下ということが言われるようになってから久しいですが、特に最近それがだんだんとひどくなって来たように思われます。

役員を受けるのが嫌で町内会を脱会したり、子ども会から脱会したりするケースが多くなりました。地域のつながりがより強く求められるにもかかわらず、一方ではこうした大人の都合で地域の中のまとまりがだんだんと難しくなっています。

そうした社会の中で生きている子ども達は、これから先大人社会に入っていく過程でこのような親や大人の考えに影響を受けるのではないのでしょうか。お互い助け合い、協力しあうといった心や行為は、大人が模範を示さなければ子どもに伝わらないと思います。子どもに1番身近な親が自分中心の考えで生活していると、子どもも自然にそれを見習い、同じような考え方になっていくと思うのです。

近頃地域で若い年齢層の姿をあまり見かけなくなりました。特に中学生、高校生などは朝の通学時に姿を見るだけです。その原因の一つは、子どもが中学生、高校生になると、親の方が目を離してしまっ  
て、子ども達を相手にせず、放っておくからだ  
と思います。難しい年頃だからだとか、部活で忙しい  
ようだといった言い訳で、ほとんど子どもの実態を  
知らず、子どもの話しを  
聞こうとしなかったり、  
話し合ったりしない親  
も多いようです。



目先の学校のテストの点数を気にしたり、成績を上げるために塾に行かせたりして、人間として将来に向けてどう生きていくか、といったことを何かにつけて話し合うようなことに努力しないしていると、子どもの方は親を相手にしてもダメといった気持ちになってしまうと思うのです。一方的な押し付けの言葉や、子どもの言い分を聞こうとしない親に、子どもは絶望し、追いつめられ、時にはほとんどないことをしでかすといった場合もあります。

私達大人は、社会人として広い視野で物事を考え、次代を生きる子ども達に何を伝えていかなければいけないか、試行錯誤をしながらでも子どもに心の通じる関わりをしていく必要があると思います。

私は今、中学生を中心とした子ども達のグループを作り、地域の子どもの会の活動するイベントに出かけて、クラフトをしたり、ゲームで一緒に遊んだり、楽しいひと時を過ごしています。子ども達はみんないきいきと目を輝かせ、思い切り身体を動かさせて楽しんでます。こうした姿を見るにつけ、地域で若い人達が活動できる場と、環境づくりをすることが、大人にできることではないかと思えます。

学校以外の所で、年齢を問わず、何人もの子ども達が群れて遊ぶことの大切さを大人が認識して、子ども達が安心して遊べる環境づくりをしてあげれば、その中で仲間を作り、お互いに協力したり時にはケンカをしたりしながら、様々な思い出を作り、それを心の糧として、人間的に心豊かにたくましく成長していくのではないのでしょうか。

そのことを、私達がしっかりと心にきざみ、様々な学びを通して青少年の育成に努力して行こうではありませんか。

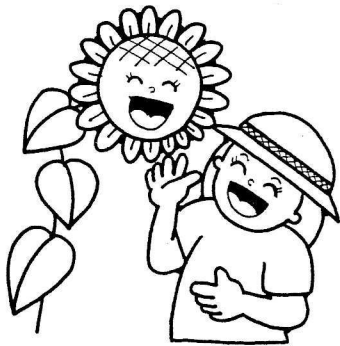
## 青少年へのメッセージ

清水 成眞

世界中では戦争や紛争、テロで多くの方が亡くなり、また先日スマトラ沖地震で多くの方が被災された。日本人も含めて多くの方がいまだに行方不明である。ある国では、飢えと寒さで毎日のように人が餓死をしている。脱国者もあとを絶たない。

また日本各地でも毎日のように悲しい事件が起きている。

人間の一生は、いつ、どのような形で終止符を打つか分らない。もちろん、人間は生まれたら、必ず死ぬのであるが、死に方は人それぞれ違うのである。生まれてくるときも一人ならば死ぬときも一人である。自分の意思ではないところで、人生が終わる場合もあるし、自分の意思で人生に終止符を打つ者もいる。生と死は、常に一緒に行動を共にしている。



日本の青少年はこのようなことを考えてみたことがあるだろうか。何年か前に、バンコクに旅行に行った時に現地の若い方と話しをする機会が何度かあった。その時に「あなたは、死ぬことが怖いと思ったことはありますか。」と尋ねたところ「全く恐くない。」と答えました。「どうして？」と尋ねると、「みんな死ぬから」と彼は答え、思わず大爆笑してしまいました。しかし、彼が答えた答えは、実はとっても大きな意味があります。彼は、「人はみんな死んでいく」という事を幼いころから、仏教を通して両親に教わってきたのです。だから、「恐くない」と言えたと思いました。

さて、日本の青少年はどうでしょうか。ほとんどの子ども達が「怖い」「死にたくない」「考えたこともない」「わからない」「なに、それ」「・・・」と答えます。なぜだろうか。なぜ、考えないのでしょう。

「命の大切さ」をどこで教わってくるのでしょうか。私という人間が実は素晴らしいものであると気付くことが大切です。しかし、いくら素晴らしくとも、いずれは無くなっていくのです。永遠に生きていたいと思っても死ぬし、ずっと健康でいたいと思っても病気になるし、若くいたいと思っても老いるのです。このように残念ながら、世界は自分が勝手に思い込んだ自分の思い通りになるようなことなど何もないということです。

しかし、自分の思い通りに自分の世界を動かしたいと思うから、そこに衝突が生まれ、悲しい出来事が次々と起こっています。学校でも家庭でも地域でも同じです。特に、自分は自分だけで生きているように思う人が多いのですが、そもそも、親が産んでくれなかったらここにはいません。一人で生きていくと試みてみたところで、水を10日も飲まないで干上がってしまうのが現実です。空気は、ほんの3分間吸わないと死んでしまうのです。他の命や、命でないもの、そういうものとの関わりのお陰で50年か、100年くらい命をやっているだけです。

戦争・紛争・テロ・災害・餓え・寒さなどを考える時に、自分たちがおかれている立場に十分に感謝して生きていって欲しいと思います。そして、自分たちの事と同じように、他の国や他人を思いやっけていって欲しいと願っています。

人は必ず死ぬのですから。

<他に2つの原稿があります。>

次回をおたのしみにしてください>



### 編集後記

暑い夏本番がやってきました。

子ども達にとっても、事故や事件に巻き込まれず、楽しい夏休みが過ごせるように、私たち地域のおじさん・おばさんパワー全開で見守ってあげなければと思います。

そのためにもしっかり食べて、しっかり睡眠とって、お楽しみも交えて元気に乗り越えましょう。

今年度も通信担当をさせていただきます。ご支援宜しくお願い致します。